

【創世記第28章】

「そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている。」(28:12)

ヤコブは祝福を受けたつもりでしたが、そのやり方は非常にずるくだまし取ったので、兄のエサウから憎まれ、命を奪われる危険にさらされました。リベカはヤコブが家から離れるように計ります。イサクから祝福をしてもらって出かけたのですが、しかしそれは非常に孤独な逃避行だったことでしょう。住み慣れた家庭から離れて、ヤコブを可愛がっていた母とも離れて旅にでて惨めな状態であったかもしれません。自分の成してきたことを思い返してもどうしようもなく途方に暮れて疲れ果て、石を枕に野宿をしていたのです。

彼は夢で一つのはしごが地に向けて立てられているのを見ました。普通梯子は地から上に向かって立てられるでしょう。しかしここでは地に向けて立てられていると書かれてあります。というのは神の方から手を差し伸べられているのです。これが恵みです。梯子が地に向けて立てられ、その頂は天に届き、神の使い達が梯子を上り下りしていたのを夢で見たのです。そして主は彼のかたわらに立っておられ、「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、**主**である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。」それだけではなく、さらに多くの祝福を語って下さいました。ヤコブは神のご臨在に触れて「まことに**主**がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった～ここぞ神の家にはほかならない。ここは天の門だ。」と告白しています。そして枕にしていた石を取りそれを石の柱として油を注ぎ、「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、無事に父の家に帰らせてくださり、こうして**主**が私の神となられるなら、石の柱として立てたこの石は神の家となり、すべてあなたが私に賜る十分の一を必ずささげます。」と信仰告白をしています。

本来人間は祝福を受けるようなものではなく、神様の前に罪深い者で呪いを受けるようなものです。しかし救い主イエス・キリストがこの世に遣わされ、その贖いによって祝福を受ける者となりました。ヤコブは失意の中で旅に出たかもしれませんが、真の神様の臨在に触れ、自分の人生が神によって生かされ、導かれている事を知りました。最早自分の欲の為に生きるのではなく、神のみ心を知り、神のみ言葉に聞き従って生きる事が出来るように祝福の道を見出したのです。

マラキ書に3:10「十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。一万軍の**主**は仰せられる一わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。」とあります。8、9節の様に呪いを受ける者ではなく、祝福を受け継ぐ者として神様は私達を召して下さいました。实际的、霊的な全般にわたる祝福を受けて、孤児院の必要の為に、各働きの為、宣教の為に更に祈り捧げてゆくことが出来ますように！

「仰ぎ願わくば主キリスト・イエス様の限りない御恵み、父なる神様の永遠に変わらないご愛、聖霊なる神様の素晴らしい御交わり、助け導きがみ前にお一人お一人に、そのご家族ご親族にとこしえまでも豊かに有りますように！アーメン」



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会
Church of the **F**irstborn who are **R**egistered in **H**eaven
主任牧師：イエス・キリスト
牧師：ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2014.12.7 No.818

新年のみ言葉

あなたとともにいるこの民はみな、
主のみわざを見るであろう。
わたしがあなたとともに行うことは
恐るべきものである。

出エジプト記 34:10



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://tlccfrh.astone-blog.jp/>

